

該当する欄に○印を記入してください。

2	法定	自主
	○	

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和3年6月30日

横浜市長 殿

提出者

住所 東京都港区港南1-8-15 Wビル3F

氏名 飛島建設株式会社 首都圏土木支店
常務執行役員支店長 稲葉 靖規

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 03-6455-8365

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	飛島建設株式会社 首都圏土木支店	自主管理番号	(2302)
事業場の所在地	東京都港区港南1-8-15 Wビル3F	TEL(連絡先):	03-6455-8365
計画期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年間)		
当該事業場において現に行っている事業に関する事項			
① 事業の種類	D-建設業 (具体的には) 総合工事業		
② 事業の規模 ※ 前年度実績を記入、医療機関は前年度末時点の病床数を記入。	製造業	製造品出荷額	百万円
	建設業	エリア内元請完成工事高	1247 百万円
	医療機関	病床数	床
	その他の業種	売上高	百万円
	(上記項目に該当しない場合にはこちらに記載をしてください。)		
③ 従業員数	192名		
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	汚泥 → 脱水、調質改良 → 改良土として再生利用 廃プラスチック → 破碎、圧縮梱包 → 原料、燃料として再生利用 → 埋立 紙くず → 圧縮梱包 → 製紙原料等として再生利用 木くず → 破碎 → チップ、肥料、燃料等として再生利用 金属くず → 切断・破碎 → 原料として再生利用 がれき類 → 破碎 → 再生砕石として再生利用 混合廃棄物 → 選別 → 各品目ごとに処理		

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別添資料1 管理体制図の通り

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度(令和2年度)実績】		
	産業廃棄物の種類数	8 種類	* 種類ごとの前年度排出量は、別紙のとおり。
	① 排出量	5,857.4 t	
	(これまでに実施した取組)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・別添資料-2参照 ① 都圏土木支店の環境行動計画を受けて、各作業所で2020年度の環境行動計画を策定し、活動した。 ② 首都圏土木支店の消化高当たり混合廃棄物排出量の2020年度目標1.9t/億円以下を達成している。 		
② 計画	【(令和3年度)目標】		
	産業廃棄物の種類数	8 種類	* 種類ごとの本年度排出目標量は、別紙のとおり。
	① 排出量	5,271.7 t	
	(今後実施する予定の取組)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・別添資料-3参照 ① 首都圏土木支店の2020年度環境行動計画を受けて、各作業所で2021年度環境行動計画を策定し、活動している。 ② 消化高当たり混合廃棄物排出量の2021年度目標1.8t/億円以下を継続目標として取り組んでいる。 		

産業廃棄物の分別に関する事項

	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		
① 現状	<ul style="list-style-type: none"> ・作業所によって分別品目は異なるが、現場の敷地が狭隘な小規模工事や都会部の工事では、十分な保管場所が確保しにくい為、混合廃棄物となり易い。 		
	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		
② 計画	<ul style="list-style-type: none"> ・作業所における産業廃棄物の分別教育の実施。 ・毎月行う産廃パトロールと四半期毎に行う環境パトロールで作業所の環境管理活動を監視し、指導、是正、改善を行う。 ・社内イントラネットによる情報の提供と共有化を行う。 		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項				
① 現状	【前年度(令和2年度)実績】			
	②+⑧ 自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。
	(これまでに実施した取組)			
・該当なし				
② 計画	【(令和3年度)目標】			
	②+⑧ 自ら再生利用を行う産業廃棄物の量		t	* 種類ごとの本年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。
	(今後実施する予定の取組)			
・該当なし				
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項				
① 現状	【前年度(令和2年度)実績】			
	⑤ 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら熱回収を行った量は、別紙のとおり。
	⑦ 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら中間処理により減量した量は、別紙のとおり。
(これまでに実施した取組)				
・該当なし				
② 計画	【(令和3年度)目標】			
	⑤ 自ら熱回収を行う産業廃棄物の量		t	* 種類ごとの本年度自ら熱回収を行う量は、別紙のとおり。
	⑦ 自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量		t	* 種類ごとの本年度自ら中間処理により減量する量は、別紙のとおり。
(今後実施する予定の取組)				
・該当なし				

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度(令和2年度)実績】			
	③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量は、別紙のとおり。
	(これまでに実施した取組)			
	・該当なし			
② 計画	【(令和3年度)目標】			
	③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		t	* 種類ごとの本年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う量は、別紙のとおり。
	(今後実施する予定の取組)			
	・該当なし			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度(令和2年度)実績】			
	⑩ 全処理委託量	5,857.4	t	* 種類ごとの前年度処理委託量は、別紙のとおり。
	⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	405.9	t	
	⑫ 再生利用業者への処理委託量	5,805.3	t	
	⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	0	t	
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	t		
	(これまでに実施した取組)			
	<ul style="list-style-type: none"> ・支店指定業者以外は、新規業者の調査→審査→承認により選定し、委託契約を締結し、適正処理に努めている。 ・マニフェスト回収確認のためにマニフェスト交付状況管理表を各作業所より毎月提出させて確認している。 ・毎月の産廃パトロール、四半期毎の環境パトロールにて作業所の処理状況を確認、指導している。 			

② 計画	【(令和3年度)目標】	
	⑩ 全処理委託量	5,271.7 t
	⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	365.4 t
	⑫ 再生利用業者への処理委託量	5,224.8 t
	⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	t
	⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
	* 種類ごとの本年度処理委託量は、別紙のとおり。	
	(今後実施する予定の取組)	
	・優良認定処理業者の情報収集と処理委託の推進。 ・電子マニフェストの導入率の向上。	
※ 事務処理欄		

備考

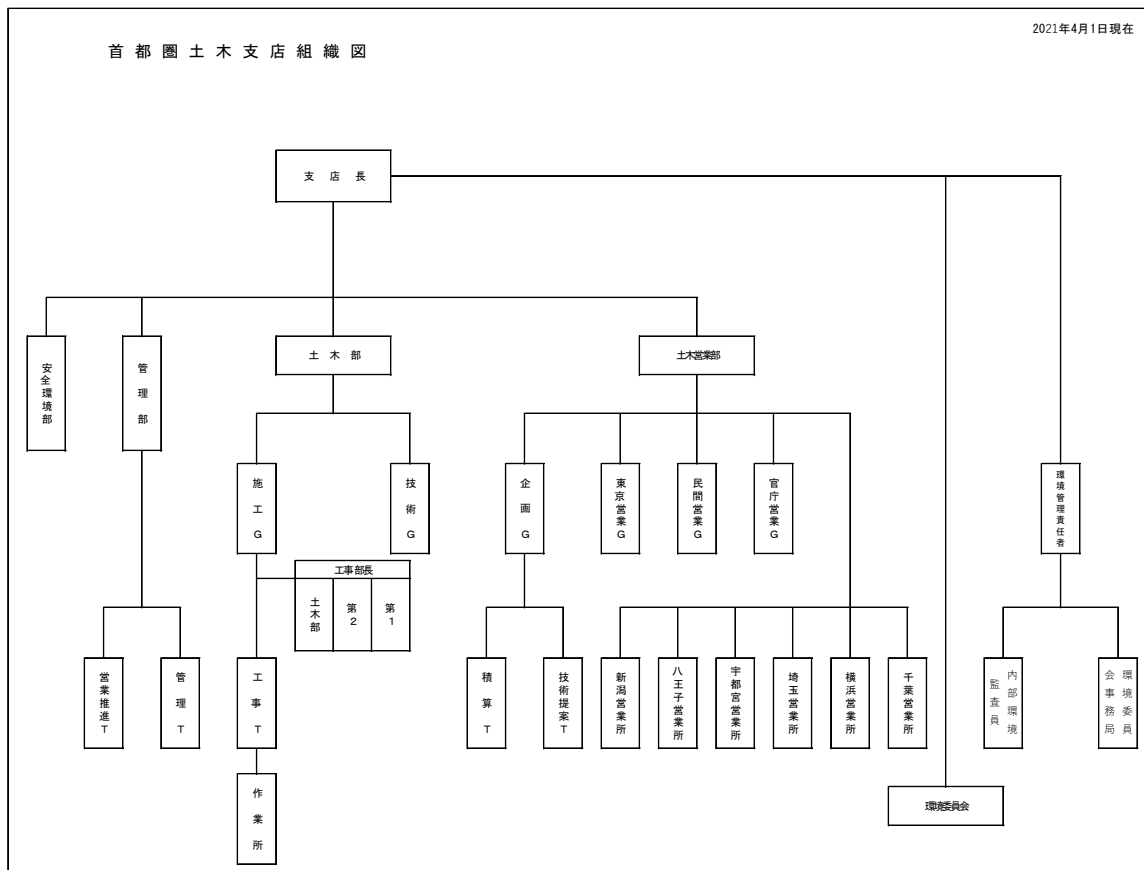
- 1 この様式は、前年度(令和2年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成し、提出してください。
また、前年度(令和2年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン未満の事業場にあつては、神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市が推進する廃棄物自主管理事業へ参加するにあたり、事業場ごとに1枚作成し、提出してください。
- 2 当該年度(令和3年度)の6月30日までに提出してください。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入してください。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類(中分類)の区分を記入してください。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入してください。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入してください。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入してください。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入してください。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付してください。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入してください。
- 7 ※欄には、何も記入しないでください。

別添資料1 管理体制図

①ISO14001 : 2004年認証取得

②環境マネジメントシステムに則して、環境管理活動を行っている。

ホームページ参照 <http://www.tobishima.co.jp/>



別添資料2

首都圏土木支店 環境目的・目標達成状況報告書

(2020年度 土木部門)

承認	確認	作成
支店長	安全環境部長	土木部長
2021年4月16日	2021年4月15日	2021年4月15日

No.	環境目的・目標及び実施事項	5月(4~6月)	8月(7~9月)	10月(10~12月)	1月(1~3月)
1	<p>【目的・目標】</p> <p>○地球温暖化防止のために、施工段階での温暖化ガス(CO2)の排出量を削減する。 ○消化高当たりCO2排出量=31.6 t-CO2/億円 以下</p> <p>【実施事項】</p> <p>1.材料-使用量・CO2排出量集計を施工6ヶ月次報告 2.事前施工検討会でのCO2排出削減検討と実施 3.建設機械・車両の省燃費運転とアイドルストップの実施 4.重機・車両の整備・定期点検の完全実施、使用量低減及び台数削減の検討と実施 5.排ガス対策型建設機械及びVFD法適応機械の優先使用 6.関連業者へのCO2排出削減の協力要請 7.環境パトロールと点検結果による指導実施(安環・施工G) 8.環境パトロール分析結果や関連情報の水平展開(施工G)</p>	<p>【達成状況・実績値】</p> <p>4月 23.3 5月 22.8 6月 24.7 (累計値) 23.1 23.7</p> <p>【実施状況】</p> <p>6月度は、目標値を達成することができた。各作業所ともCO2の排出量の抑制管理が適切にできているためと考えられる。今後も引き続き環境パトロール等で、CO2の排出量を抑制するよう指導を実施していく。</p>	<p>【達成状況・実績値】</p> <p>7月 29.8 8月 29.0 9月 29.0 (累計値) 25.1 25.7 26.2</p> <p>【実施状況】</p> <p>9月度も、目標値を達成することができた。各作業所ともCO2の排出量の抑制管理が適切にできているためと考えられる。今後も引き続き環境パトロール等で、CO2の排出量を抑制するよう指導を実施していく。</p>	<p>【達成状況・実績値】</p> <p>10月 30.3 11月 26.4 12月 20.5 (累計値) 26.7 26.7 25.9</p> <p>【実施状況】</p> <p>12月度も、目標値を達成することができた。各作業所ともCO2の排出量の抑制管理が適切にできているためと考えられる。今後も引き続き環境パトロール等で、CO2の排出量を抑制するよう指導を実施していく。</p>	<p>【達成状況・実績値】</p> <p>1月 29.4 2月 23.6 3月 26.3 (累計値) 26.2 25.9 26.0</p> <p>【実施状況】</p> <p>3月度も、目標値を達成することができた。各作業所ともCO2の排出量の抑制管理が適切にできているためと考えられる。今後も引き続き環境パトロール等で、CO2の排出量を抑制するよう指導を実施していく。</p>
2	<p>【目的・目標】</p> <p>○産業廃棄物の減量化を推進する。 ○消化高当り混合廃棄物排出量=1.9 t/億円 以下</p> <p>【実施事項】</p> <p>1.廃棄物排出量の品目別集計と月次報告および消化高当り混合廃棄物排出量等の周知、水平展開(施工G) 2.事前施工検討会での減量化の検討と対策実施 3.廃棄物分別保管場所の整備と分別の徹底 4.関連業者への廃棄物減量化の協力要請 5.環境パトロール、産廃パトロールの実施と点検結果による指導(安環・施工G) 6.環境パトロール、産廃パトロールの分析結果や関連情報の水平展開(施工G)</p>	<p>【達成状況・実績値】</p> <p>4月 1.5 5月 1.0 6月 1.7 (累計値) 1.3 1.4</p> <p>【実施状況】</p> <p>4月度累計は、昨年0.9tに対し1.5tとなった。 5月度累計は、昨年1.5tに対し1.3tとなった。 6月度累計は、昨年1.3tに対し1.4tとなった。</p> <p>【実施状況】</p> <p>6月度は、目標値を達成することができた。今後も引き続き環境パトロール、産廃パトロール等で、産業廃棄物の分別に努め、混合廃棄物を削減するよう、指導を継続していく。</p>	<p>【達成状況・実績値】</p> <p>7月 1.8 8月 2.1 9月 1.5 (累計値) 1.5 1.6 1.6</p> <p>【実施状況】</p> <p>7月度累計は、昨年1.1tに対し1.5tとなった。 8月度累計は、昨年1.3tに対し1.6tとなった。 9月度累計は、昨年1.3tに対し1.6tとなった。</p> <p>【実施状況】</p> <p>9月度も、目標値を達成することができた。今後も引き続き環境パトロール、産廃パトロール等で、産業廃棄物の分別に努め、混合廃棄物を削減するよう、指導を継続していく。</p>	<p>【達成状況・実績値】</p> <p>10月 1.9 11月 0.9 12月 1.0 (累計値) 1.6 1.5 1.5</p> <p>【実施状況】</p> <p>10月度累計は、昨年1.4tに対し1.6tとなった。 11月度累計は、昨年1.5tに対し1.5tとなった。 12月度累計は、昨年1.5tに対し1.5tとなった。</p> <p>【実施状況】</p> <p>12月度も、目標値を達成することができた。今後も引き続き環境パトロール、産廃パトロール等で、産業廃棄物の分別に努め、混合廃棄物を削減するよう、指導を継続していく。</p>	<p>【達成状況・実績値】</p> <p>1月 1.1 2月 1.3 3月 1.2 (累計値) 1.5 1.4 1.4</p> <p>【実施状況】</p> <p>1月度累計は、昨年1.5tに対し1.5tとなった。 2月度累計は、昨年1.5tに対し1.4tとなった。 3月度累計は、昨年1.7tに対し1.4tとなった。</p> <p>【実施状況】</p> <p>3月度も、目標値を達成することができた。今後も引き続き環境パトロール、産廃パトロール等で、産業廃棄物の分別に努め、混合廃棄物を削減するよう、指導を継続していく。</p>
3	<p>【目的・目標】</p> <p>○環境保全活動を実施する。 ○環境社会貢献活動開催 =4.0件 以上 (累計件数/稼働作業所累計月数)</p> <p>【実施事項】</p> <p>1.自主的に環境保全活動を実施(環境社会貢献活動開催件数) 作業所周辺の美化活動、作業員への環境教育、現場見学会等の開催件数を施工Gに報告 2.地域主催のイベントに参加協力(環境社会貢献活動参加件数) 環境ボランティア活動、植林・生態系保全活動等の情報を収集し積極的な参加を推進、参加件数を施工Gに報告</p>	<p>【達成状況・実績値】</p> <p>4月 4.2 5月 4.2 6月 4.3 (累計値) 4.2 4.4</p> <p>【実施状況】</p> <p>4月度累計は、昨年4.1件に対し4.2件となった。 5月度累計は、昨年4.1件に対し4.2件となった。 6月度累計は、昨年4.0件に対し4.4件となった。</p> <p>【実施状況】</p> <p>6月度は、目標値を達成することができた。今後もこの状況を維持できるよう、引き続き積極的な作業所周辺の美化活動・環境教育・現場見学会の開催を指導、徹底する。</p>	<p>【達成状況・実績値】</p> <p>7月 4.8 8月 4.1 9月 4.4 (累計値) 4.4 4.3 4.3</p> <p>【実施状況】</p> <p>7月度累計は、昨年4.0件に対し4.4件となった。 8月度累計は、昨年4.0件に対し4.3件となった。 9月度累計は、昨年4.0件に対し4.3件となった。</p> <p>【実施状況】</p> <p>9月度も、目標値を達成することができた。今後もこの状況を維持できるよう、引き続き積極的な作業所周辺の美化活動・環境教育・現場見学会の開催を指導、徹底する。</p>	<p>【達成状況・実績値】</p> <p>10月 4.2 11月 4.4 12月 4.1 (累計値) 4.3 4.3 4.3</p> <p>【実施状況】</p> <p>10月度累計は、昨年4.1件に対し4.3件となった。 11月度累計は、昨年4.1件に対し4.3件となった。 12月度累計は、昨年4.1件に対し4.3件となった。</p> <p>【実施状況】</p> <p>12月度も、目標値を達成することができた。今後もこの状況を維持できるよう、引き続き積極的な作業所周辺の美化活動・環境教育・現場見学会の開催を指導、徹底する。</p>	<p>【達成状況・実績値】</p> <p>1月 4.0 2月 4.1 3月 5.0 (累計値) 4.3 4.3 4.3</p> <p>【実施状況】</p> <p>1月度累計は、昨年4.0件に対し4.3件となった。 2月度累計は、昨年4.1件に対し4.3件となった。 3月度累計は、昨年4.1件に対し4.3件となった。</p> <p>【実施状況】</p> <p>3月度も、目標値を達成することができた。今後もこの状況を維持できるよう、引き続き積極的な作業所周辺の美化活動・環境教育・現場見学会の開催を指導、徹底する。</p>

<p>【本部長・技研所長/環境管理責任者コメント】</p> <p>CO2排出量、混合廃棄物減量化及び社会貢献活動の開催は、目標を達成しており、問題ない。CO2排出量については、電気使用量が大幅となるケーソンやシールドの案件の着手遅延等が原因と思われるが、大きく減少している。来年度の電力使用計画は、その辺も十分勘案して適切な目標を設定する必要がある。</p>	<p>【統括環境管理責任者/支店長コメント】</p> <p>全てにおいて目標値を達成しているが、CO2排出量削減に関しては、環境管理責任者の言ってる通り、各作業所に電力消費量の予定について十分検討する様、土木部から指導願いたい。</p>
--	---

首都圏土木支店 2021年度環境行動計画書

承認	確認	作成
支店長 2021年3月24日	安全環境部長 2021年3月22日	土木部長 2021年3月19日

別添資料3

部門・部署名 (土木部門)

No.	環境目的・目標 結果の評価方法	環境行動計画 実施事項	必要な資源/ 実施責任者	年度スケジュール												備考 (適用する規定・手順書等)
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1	【目的】 地球温暖化防止のために、施工段階での温暖化ガス(CO2)の排出量を削減する。 【目標(定義も記入)】 消化高当たりCO2排出量 (稼働作業所の2021年度予測集計値の95%) 目標値: 44.4t-CO2/億円 以下 CO2排出量=換算排出量(t-CO2)÷消化高(億円)	1. 作業所は、Eメール-使用量・CO2排出量集計表を毎月施工Gへ報告する。 2. 作業所及び施工Gは、事前施工検討会でCO2排出削減策を検討し実施する。(建設発生土の削減、場内有効利用、工事間利用、運搬距離短縮、省エネ型建設機械・車両の採用、高効率仮設電気機器の使用など) 3. 作業所は建設機械・車両の省燃費運転とアイドリングストップを実施する。 4. 重機・車両の整備・定期点検の完全実施と使用量低減と台数削減を検討し実施する。 5. 作業所は排ガス対策型建設機械(国交省指定)及びオフロード法適応機械を優先して使用する。 6. 作業所は協力業者・資機材業者へCO2排出削減の協力要請を行う。 7. 安全環境部及び施工Gは環境ハトリール(全作業所を1回/四半期毎)を実施し、点検と指導を行う。 8. 施工Gは、所長会議・事前施工検討会・通知・ノリによる情報提供等で環境ハトリールの分析結果やCO2排出削減関連情報の水平展開を行う。	所長 所長 所長 所長 所長 所長 部長	↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓	Eメール-使用量実態調査表 事前施工検討会議事録 アイディングストップ実施要領 省燃費運転マニュアル 環境関連要請書 排ガス対策型建設機械一覧表 「オフロード法」対象機械一覧 環境ハトリールチェックシート 土木部門手順書 全社・支店環境関連文書(ノーツ)											
2	【目的】 産業廃棄物の減量化を推進する。 【目標(定義も記入)】 消化高当り混合廃棄物排出量(2020年度目標値の95%) 目標値: 1.8t/億円 以下 混合廃棄物排出量指数=混合廃棄物排出量(t)÷消化高(億円)	1. 作業所は建設廃棄物排出量を品目別に集計し、毎月安全環境部へ報告し、施工Gは全作業所の報告内容の集計と分析を実施し、排出量や分別率等の結果を水平展開する。 2. 作業所及び施工Gは、事前施工検討会で資材持込量の削減、資機材の転用、残土量及び運搬距離の低減、梱包材の削減、木製型枠の削減などの減量化対策と分別モードの確保などを検討し、実施する。 3. 作業所は廃棄物分別保管場所の整備と分別に関する教育の徹底により、混合廃棄物の削減を実施する。 4. 作業所は協力業者・資機材業者へ廃棄物発生抑制の協力要請を行う。 5. 施工G及び安全環境部は、環境ハトリール(四半期に1回全作業所)及び産廃ハトリール(毎月全作業所)を実施し、点検と指導を行う。 6. 施工Gは所長会議・事前施工検討会・通知等で環境ハトリールや産廃ハトリールの分析結果や廃棄物の適正処理と減量・リサイクル等の関連情報の水平展開を行う。	所長 所長 所長 所長 部長	↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓	イーリバス電子MF集計表 環境管理記録、建設副産物の処理基準、濁水・汚泥処理の実施要領 環境関連要請書 環境ハトリールチェックシート 産廃ハトリールチェックシート 土木部門手順書 全社・支店環境関連文書(ノーツ)											
3	【目的】 環境保全活動を実施する。 【目標(定義も記入)】 環境社会貢献活動開催(2020年度目標値継続) 目標値: 4.0件以上(累計件数/稼働作業所累計月数) ※環境社会貢献活動参加については目標値は設定せず、日常管理とする。	1. 自主的に環境保全活動を実施する。(環境社会貢献活動開催件数) ・作業所は作業所周辺の美化活動・清掃活動、現場見学会、環境教育等を積極的に開催し、開催件数を施工Gに報告する。 2. 地域主催のイベントに参加協力する。(環境社会貢献活動参加件数) ・環境ボランティア活動、植林・生態系保全活動等の情報を収集し積極的に参加を推進する。 ・作業所は環境ボランティア活動、植林・生態系保全活動等に積極的に参加し、参加件数を施工Gに報告する。	所長 所長	↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓	環境目的・目標達成状況報告書 土木部より環境教育の資料(概ね6月、12月)発信 環境貢献活動DB(ノーツ)											

(注1) 部署の目的・目標は、部門の目的・目標から該当するものを選定する。(注2) 部署独自の目的・目標(特記仕様書等より)を設定した場合は、No.欄に●も記入する。 様式-環境-6.2 (2016.10.27)

(注3) スケジュール欄には、実施状況の確認(モーション)を「▽」で記入し、展開内容はバーチャル線で明示する。

※ 目標値に対して実績値が50%削減した場合は、目標値の見直しをおこなう。第2四半期以降で3ヶ月未達が続いた場合は、原因を分析し、必要であれば目標値の変更を考慮する。

処理ルート
 《支店》 原本作成(部門長)→確認(環境管理責任者)→承認(支店長)→原本保管・電子公開(事務局)→写し保管(各部門)
 《本社/全社》 原本作成/確認(土木/建築事業本部長・管理本部長・技術研究所長/安全環境部長)→承認(統括環境管理責任者)→原本保管・電子公開(事務局)→写し保管(各本部)

2-2	法定	自主
	○	

事業場名称 : 飛鳥建設株式会社 首都圏土木支店

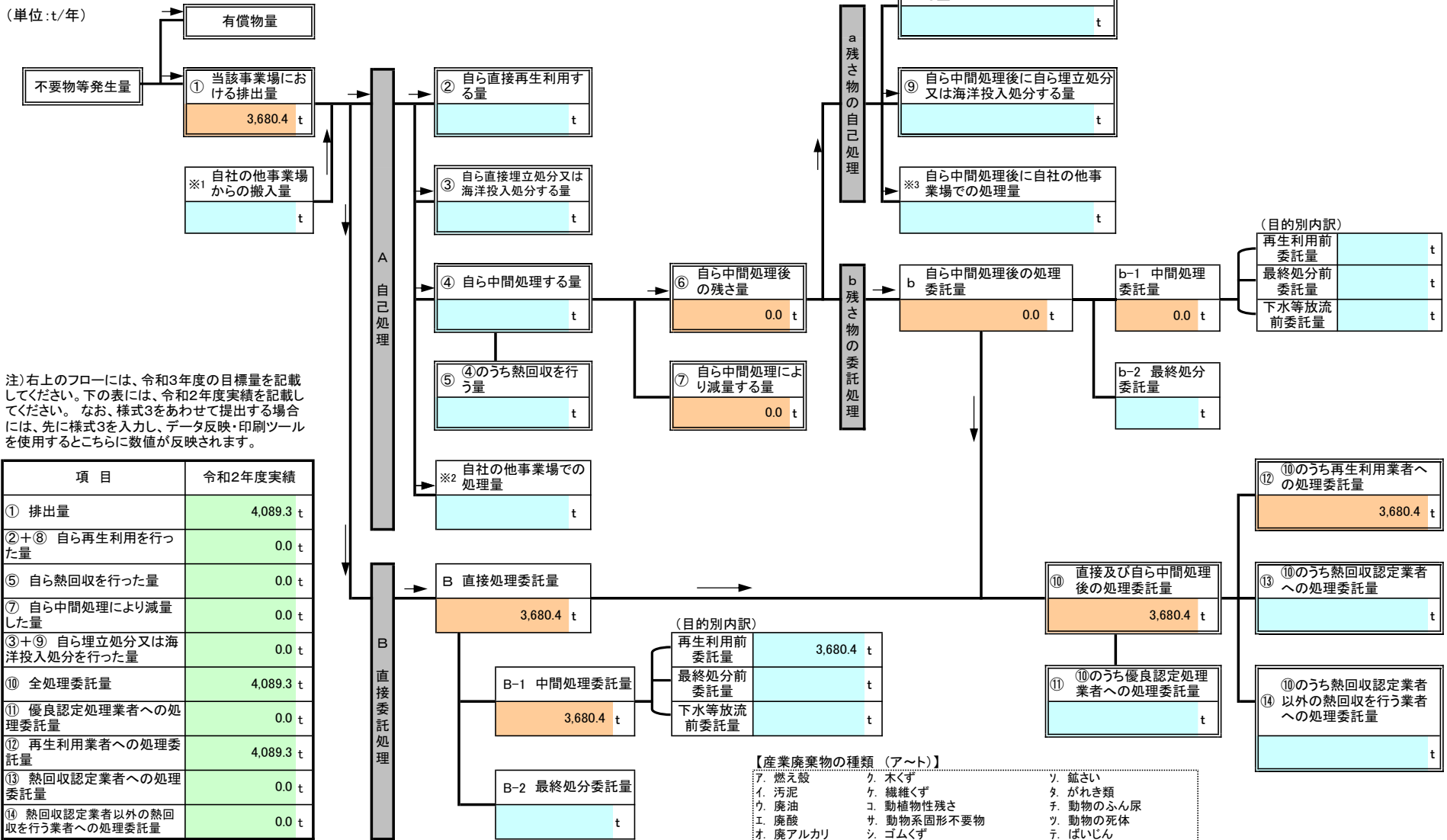
別紙処理フロー

令和3年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	イ. 汚泥
------------------	-------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和3年度の目標量を記載してください。下の表には、令和2年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和2年度実績
① 排出量	4,089.3 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	4,089.3 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	4,089.3 t
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】

ア. 燃え殻	ク. 木くず	シ. 珪さい
イ. 汚泥	ケ. 繊維くず	タ. がれき類
ウ. 廃油	コ. 動植物性残さ	チ. 動物のふん尿
エ. 廃酸	サ. 動物系固形不要物	ツ. 動物の死体
オ. 廃アルカリ	シ. ゴムくず	テ. ばいじん
カ. 廃プラスチック類	ス. 金属くず	ト. 混合廃棄物その他
キ. 紙くず	セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず	

2-2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

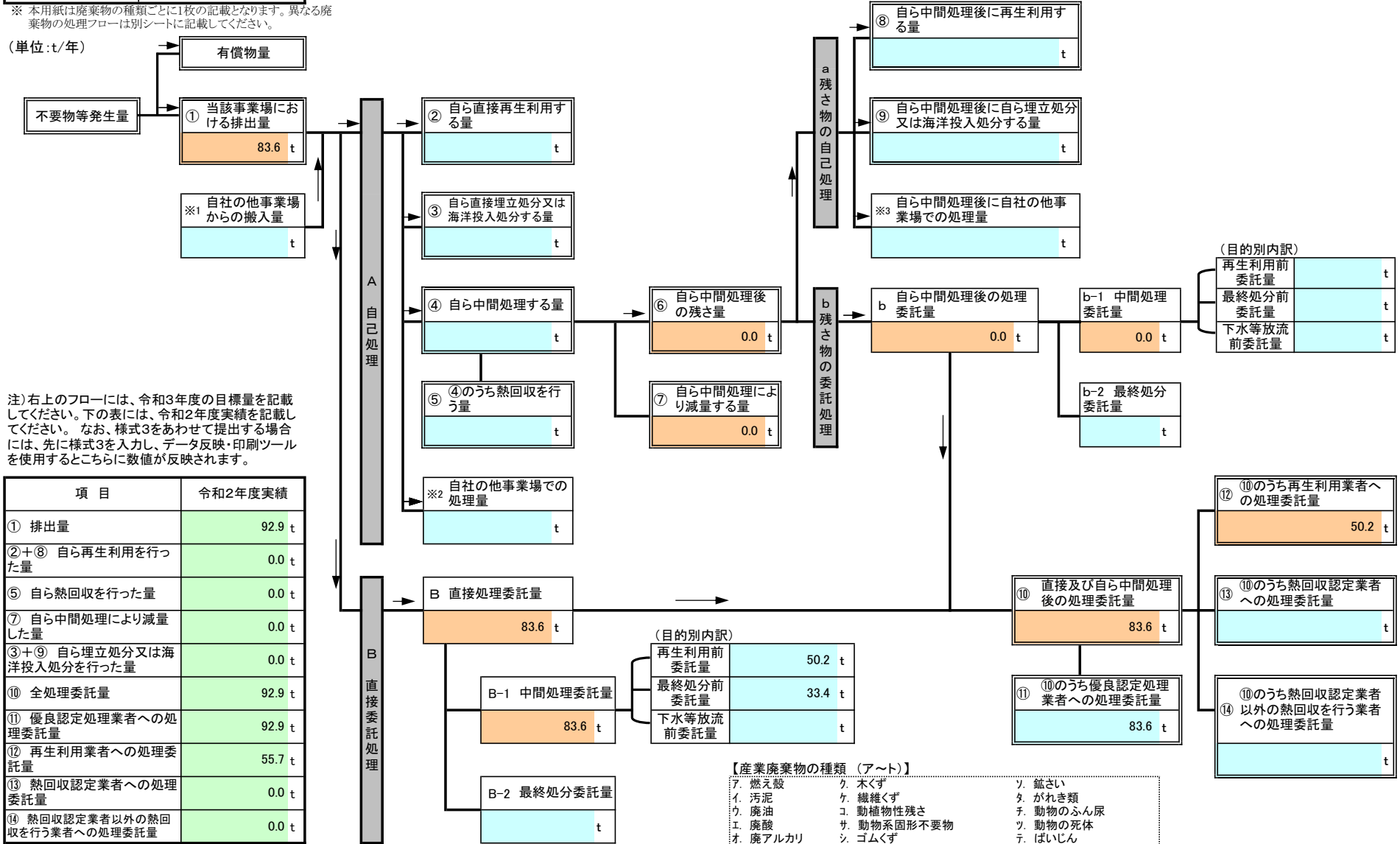
事業場名称 : 飛鳥建設株式会社 首都圏土木支店

令和3年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	カ. 廃プラスチック類
------------------	-------------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和3年度の目標量を記載してください。下の表には、令和2年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和2年度実績
① 排出量	92.9 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	92.9 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	92.9 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	55.7 t
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鉱さい
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

2-2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称 : 飛鳥建設株式会社 首都圏土木支店

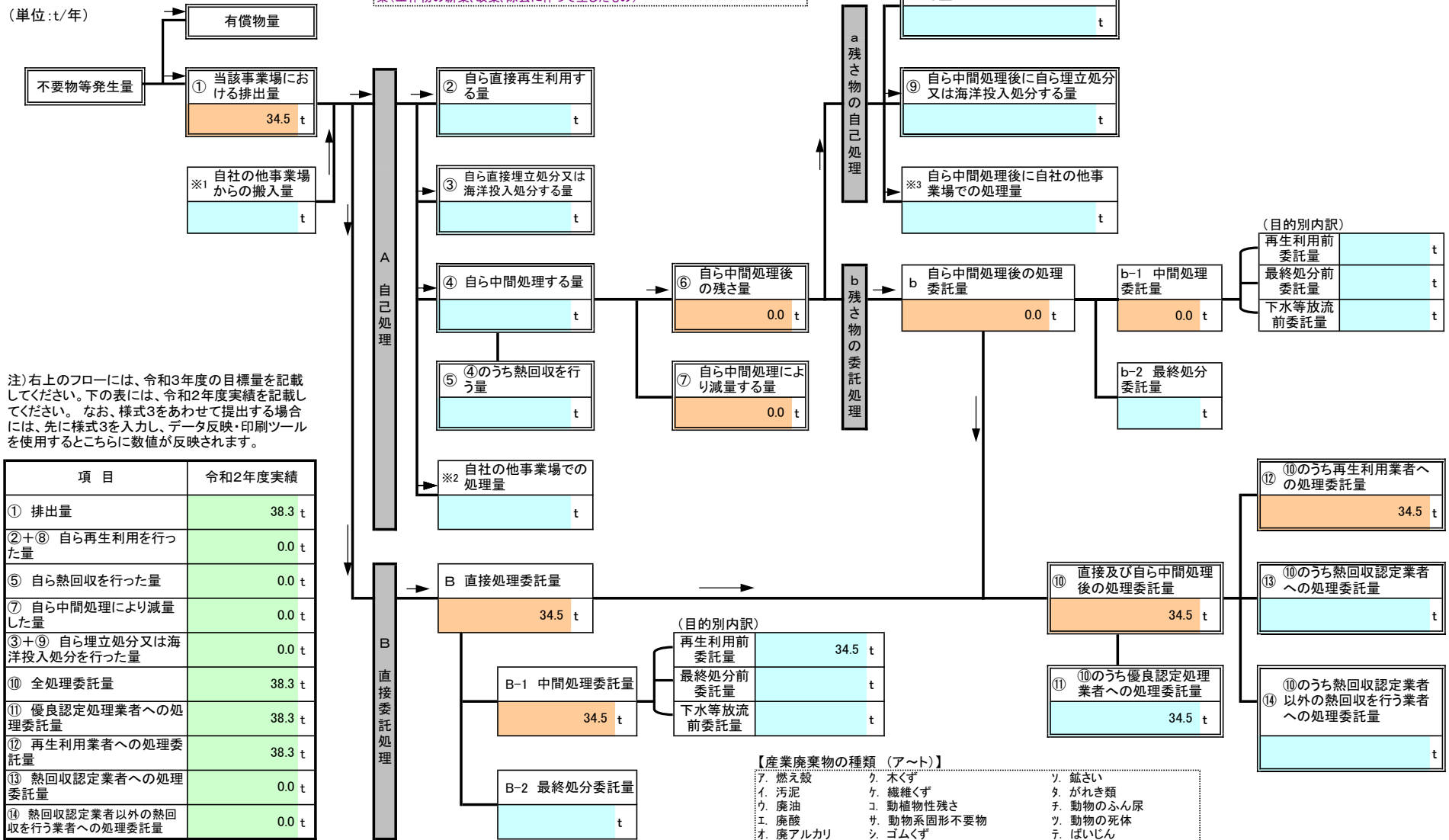
令和3年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類 **キ. 紙くず**

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)

「紙くず」には業種指定があり、該当業種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です。
 【該当業種】パルプ、紙又は紙加工品の製造業、新聞業(新聞巻取紙を使用して印刷発行を行うもの)、出版業(印刷出版を行うもの)、製本業、印刷物加工業、建設業(工作物の新築、改築、除去に伴って生じたもの)



注) 右上のフローには、令和3年度の目標量を記載してください。下の表には、令和2年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和2年度実績
① 排出量	38.3 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	38.3 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	38.3 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	38.3 t
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鉱さい
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

2-2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称 : 飛鳥建設株式会社 首都圏土木支店

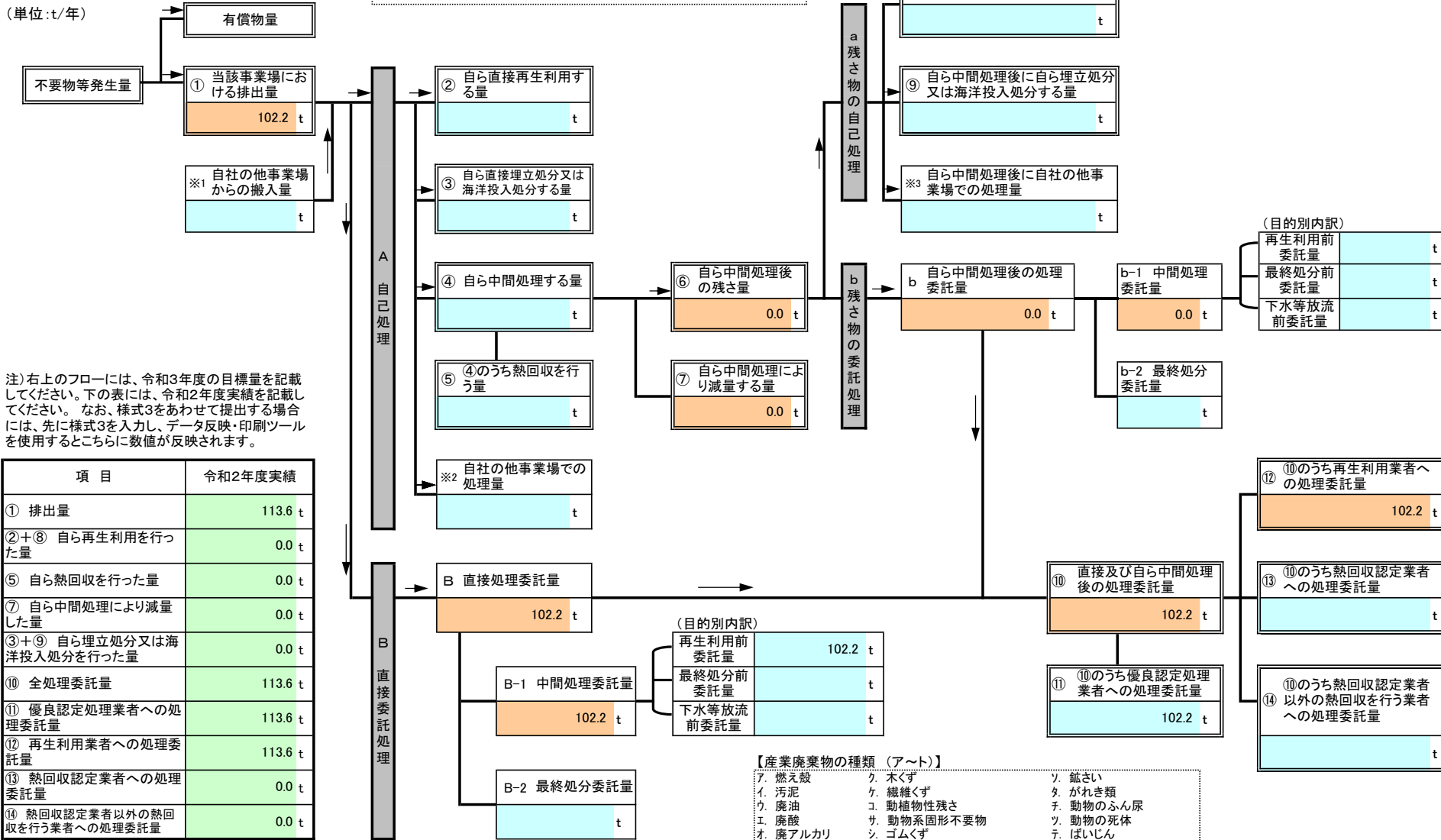
令和3年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類 **ク. 木くず**

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

【木くず】には業種指定等があり、該当業種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です。
 【該当業種】木材又は木製品の製造業(家具製造業を含む)、パルプ製造業、輸入木材の卸売業及び物品買貨業に係るもの、建設業(工作物の新築、改築、除去に伴って生じたもの)。
 【全業種対象】貨物の流通のために使用したパレット(パレットへの貨物の積付けのために使用したこん包用の木材を含む)。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和3年度の目標量を記載してください。下の表には、令和2年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和2年度実績
① 排出量	113.6 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	113.6 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	113.6 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	113.6 t
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鉱さい
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

2-2	法定	自主
	○	

事業場名称 : 飛鳥建設株式会社 首都圏土木支店

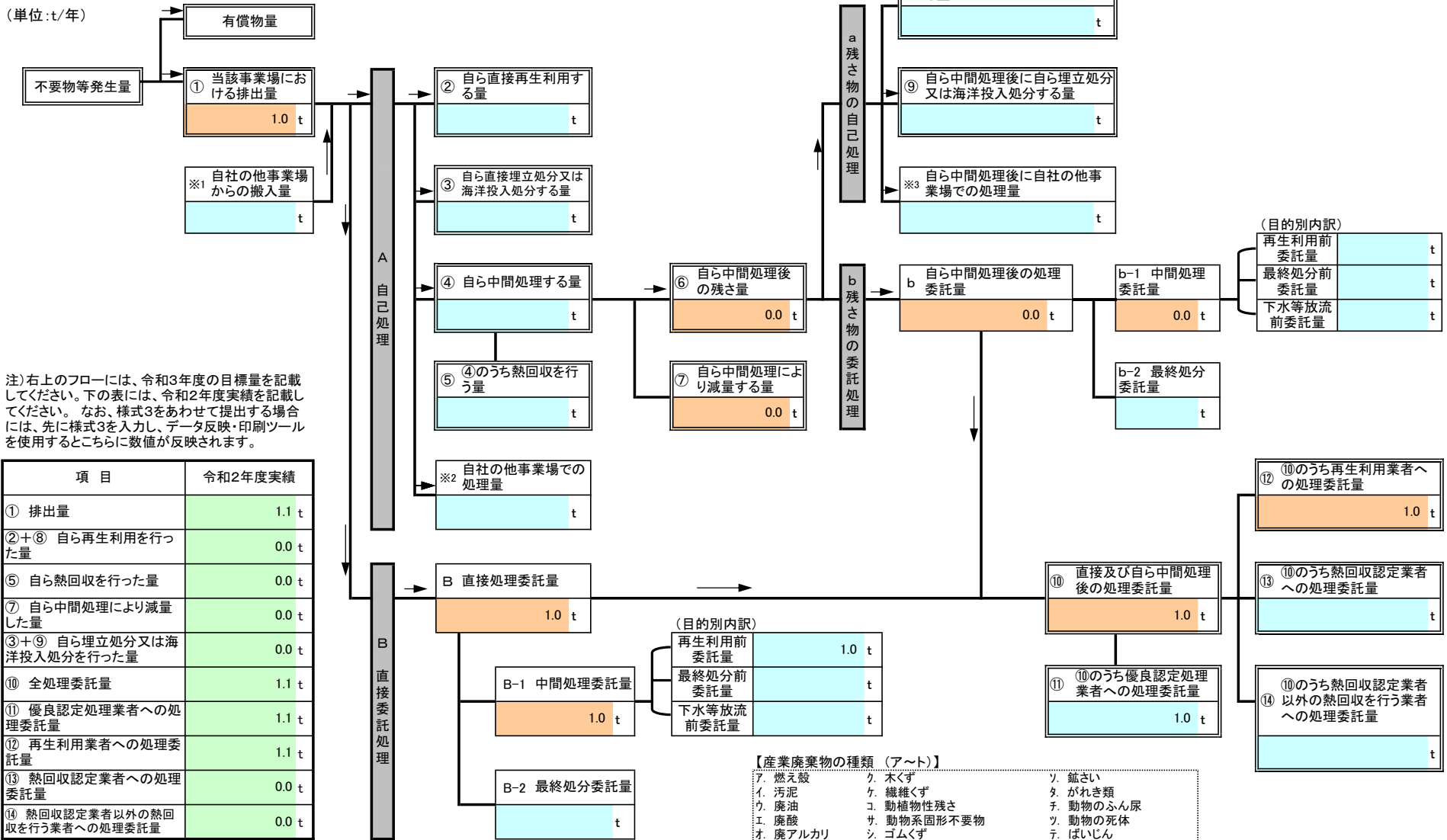
別紙処理フロー

令和3年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ス、金属くず
------------------	--------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和3年度の目標量を記載してください。下の表には、令和2年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和2年度実績
① 排出量	1.1 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	1.1 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	1.1 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	1.1 t
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鉱さい
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

2-2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

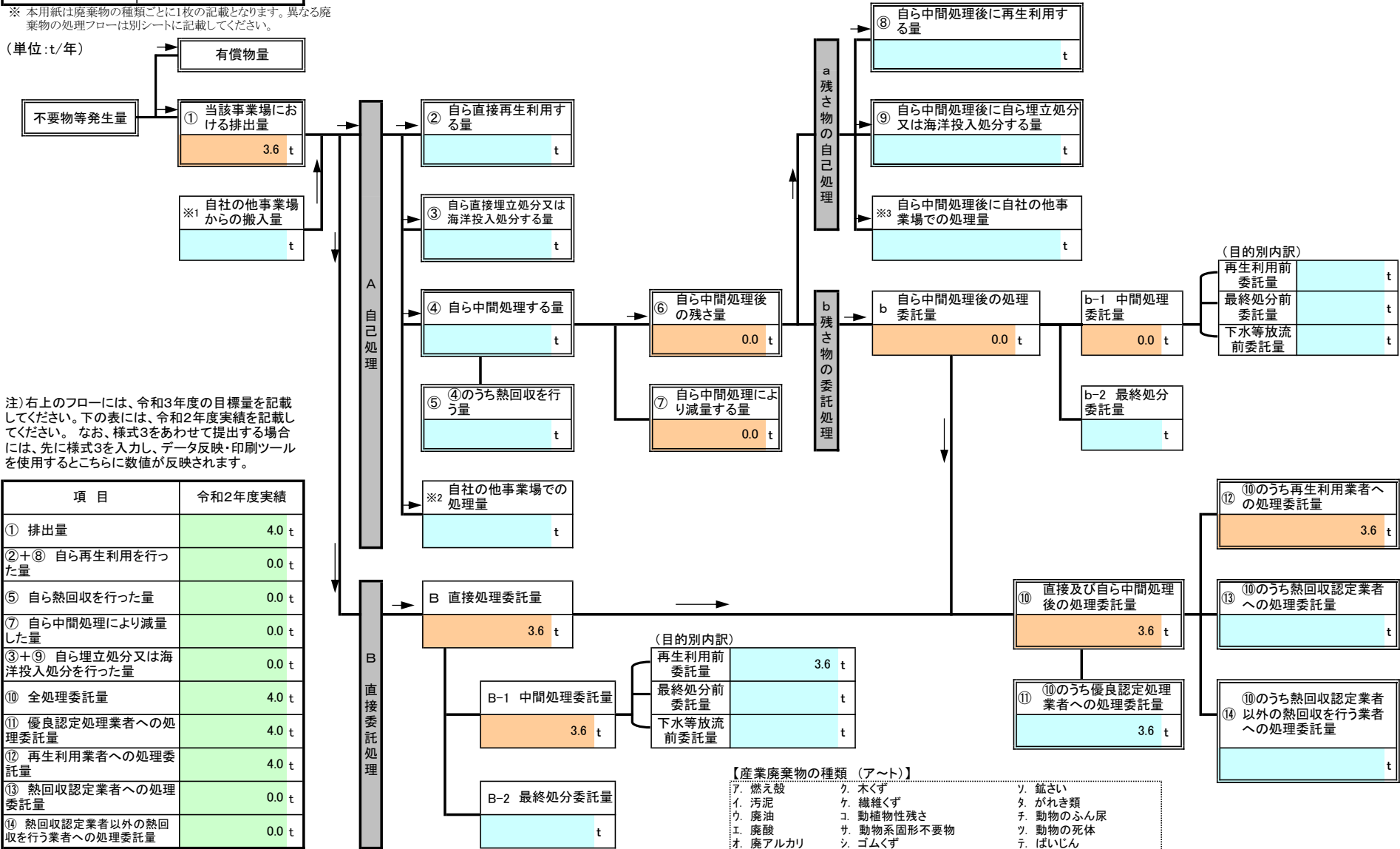
事業場名称 : 飛鳥建設株式会社 首都圏土木支店

令和3年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
------------------	---------------------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和3年度の目標量を記載してください。下の表には、令和2年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和2年度実績
① 排出量	4.0 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	4.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	4.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	4.0 t
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】

ア. 燃え殻	ク. 木くず	シ. 鉱さい
イ. 汚泥	ケ. 繊維くず	タ. がれき類
ウ. 廃油	コ. 動植物性残さ	チ. 動物のふん尿
エ. 廃酸	ク. 動物系固形不要物	ツ. 動物の死体
オ. 廃アルカリ	シ. ゴムくず	テ. ばいじん
カ. 廃プラスチック類	ス. 金属くず	ト. 混合廃棄物その他
キ. 紙くず	セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず	

2-2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

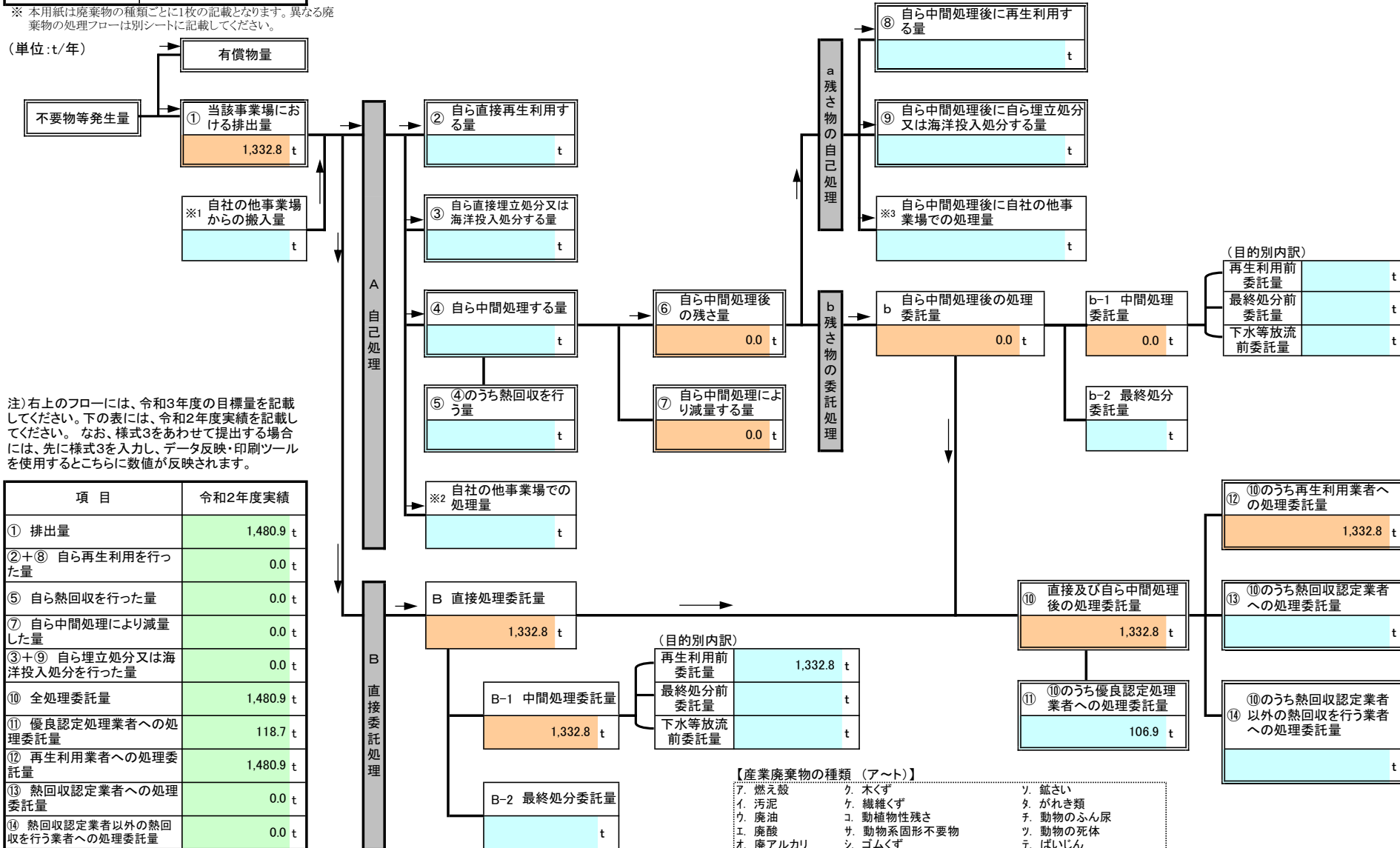
事業場名称 : 飛鳥建設株式会社 首都圏土木支店

令和3年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	タ、がれき類
------------------	--------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和3年度の目標量を記載してください。下の表には、令和2年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和2年度実績
① 排出量	1,480.9 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	1,480.9 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	118.7 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	1,480.9 t
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鉱さい
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

2-2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

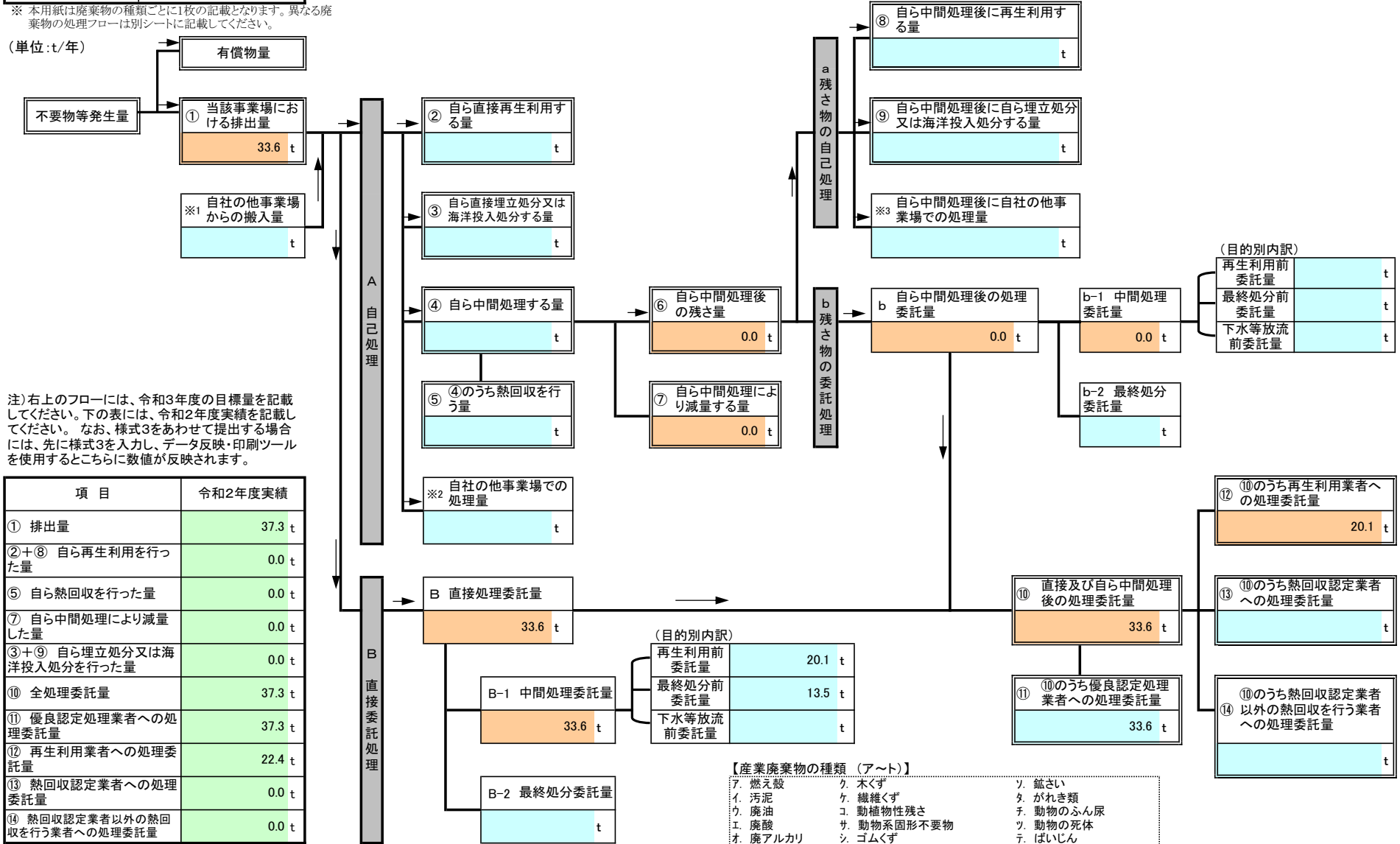
事業場名称 : 飛鳥建設株式会社 首都圏土木支店

令和3年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ト. 混合廃棄物その他
------------------	-------------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注) 右上のフローには、令和3年度の目標量を記載してください。下の表には、令和2年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和2年度実績
① 排出量	37.3 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	37.3 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	37.3 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	22.4 t
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】

ア. 燃え殻	カ. 木くず	シ. 鉱さい
イ. 汚泥	キ. 繊維くず	タ. がれき類
ウ. 廃油	ク. 動植物性残さ	チ. 動物のふん尿
エ. 廃酸	コ. 動物系固形不要物	ツ. 動物の死体
オ. 廃アルカリ	シ. ゴムくず	テ. ばいじん
カ. 廃プラスチック類	ス. 金属くず	ト. 混合廃棄物その他
キ. 紙くず	セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず	

該当する欄に○印を記入してください。

3	法定	自主
	○	

様式第二号の九(第八条の四の六関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和3年6月30日

横浜市長 殿

提出者

住所 東京都港区港南1-8-15 Wビル3F

氏名 飛鳥建設株式会社 首都圏土木支店
常務執行役員支店長 稲葉 靖規
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)
電話番号 03-6455-8365

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和2年度の産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

事業場の名称	飛鳥建設株式会社 首都圏土木支店	自主管理番号 (2302)
事業場の所在地	東京都港区港南1-8-15 Wビル3F	TEL(連絡先): 03-6455-8365
事業の種類	D-建設業 (具体的には) 総合工事業	
産業廃棄物処理計画における計画期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年間)	

産業廃棄物処理計画における目標値

項目	目標値	項目	目標値
排出量	12,473.4 t	全処理委託量	12,473.4 t
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	優良認定処理業者への処理委託量	326.7 t
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	再生利用業者への処理委託量	12,442.1 t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	熱回収認定業者への処理委託量	0 t
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t

※ 事務処理欄	
---------	--

3-2	法定	自主
	○	

事業場名称 : 飛鳥建設株式会社 首都圏土木支店

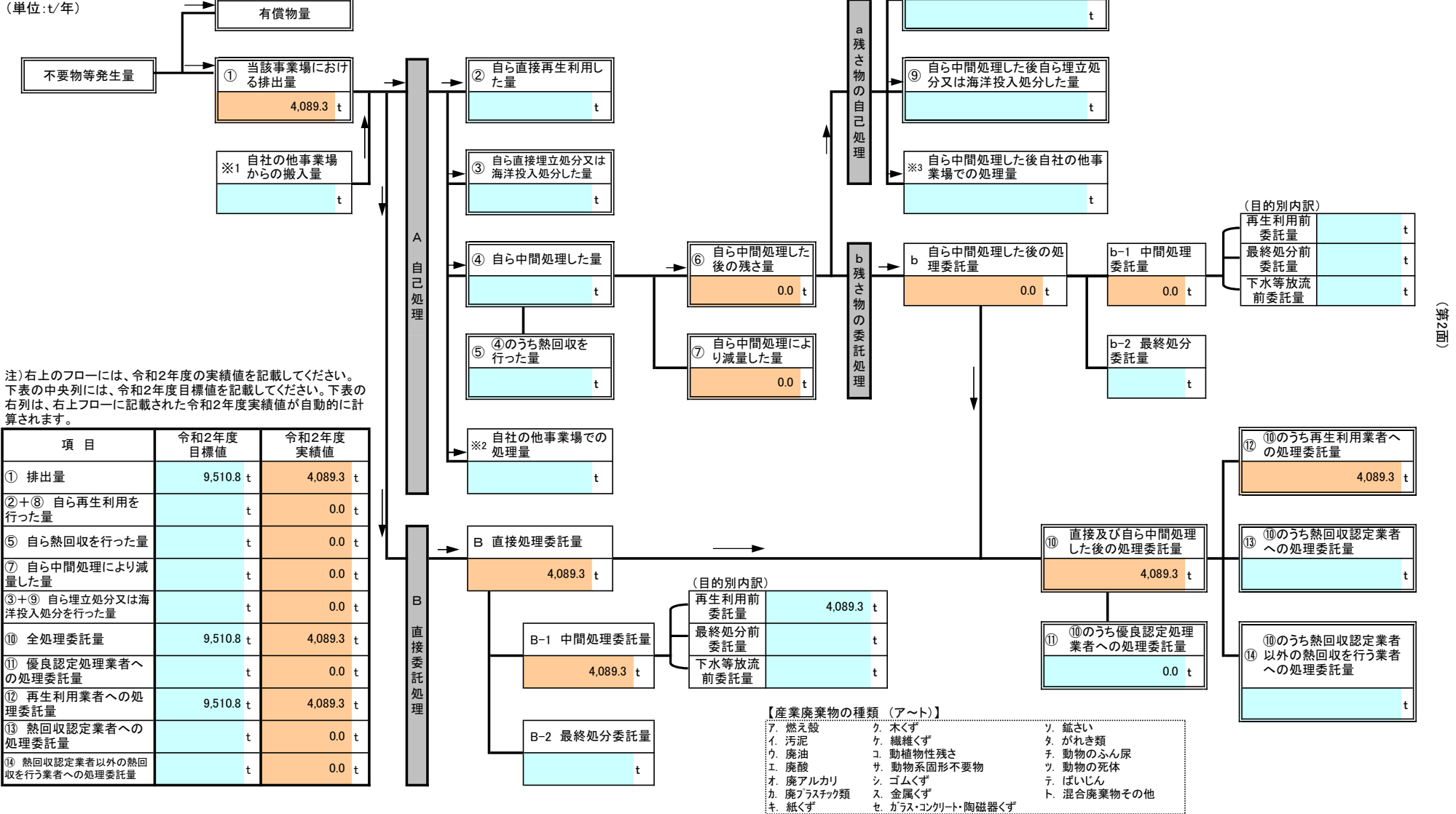
別紙処理フロー

令和2年度に発生した産業廃棄物ごとの量と処理計画の実施結果

フローに記載した産業廃棄物の種類	イ. 汚泥
------------------	-------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位: t/年)



注) 右上のフローには、令和2年度の実績値を記載してください。下表の中央列には、令和2年度目標値を記載してください。下表の右列は、右上フローに記載された令和2年度実績値が自動的に計算されます。

項目	令和2年度目標値	令和2年度実績値
① 排出量	9,510.8 t	4,089.3 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	t	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	t	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	t	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	t	0.0 t
⑩ 全処理委託量	9,510.8 t	4,089.3 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	t	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	9,510.8 t	4,089.3 t
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	t	0.0 t
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	0.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鉱さい
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

(縦向き)

3-2	法定	自主
	○	

事業場名称 : 飛鳥建設株式会社 首都圏土木支店

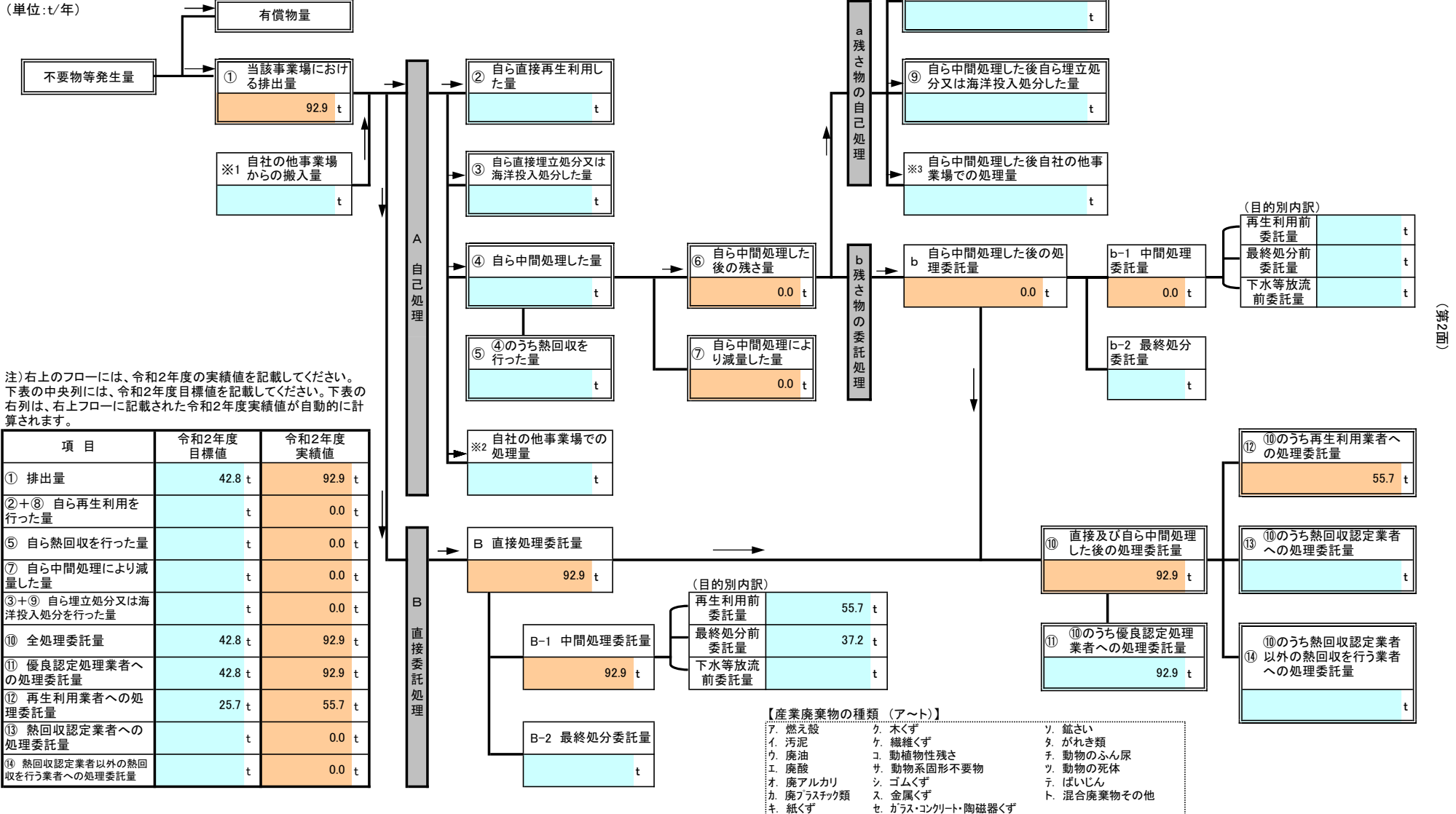
別紙処理フロー

令和2年度に発生した産業廃棄物ごとの量と処理計画の実施結果

フローに記載した産業廃棄物の種類	カ. 廃プラスチック類
------------------	-------------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位: t/年)



注) 右上のフローには、令和2年度の実績値を記載してください。下表の中央列には、令和2年度目標値を記載してください。下表の右列は、右上フローに記載された令和2年度実績値が自動的に計算されます。

項目	令和2年度目標値	令和2年度実績値
① 排出量	42.8 t	92.9 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	t	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	t	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	t	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	t	0.0 t
⑩ 全処理委託量	42.8 t	92.9 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	42.8 t	92.9 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	25.7 t	55.7 t
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	t	0.0 t
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	0.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鉱さい
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

(縦向き)

3-2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

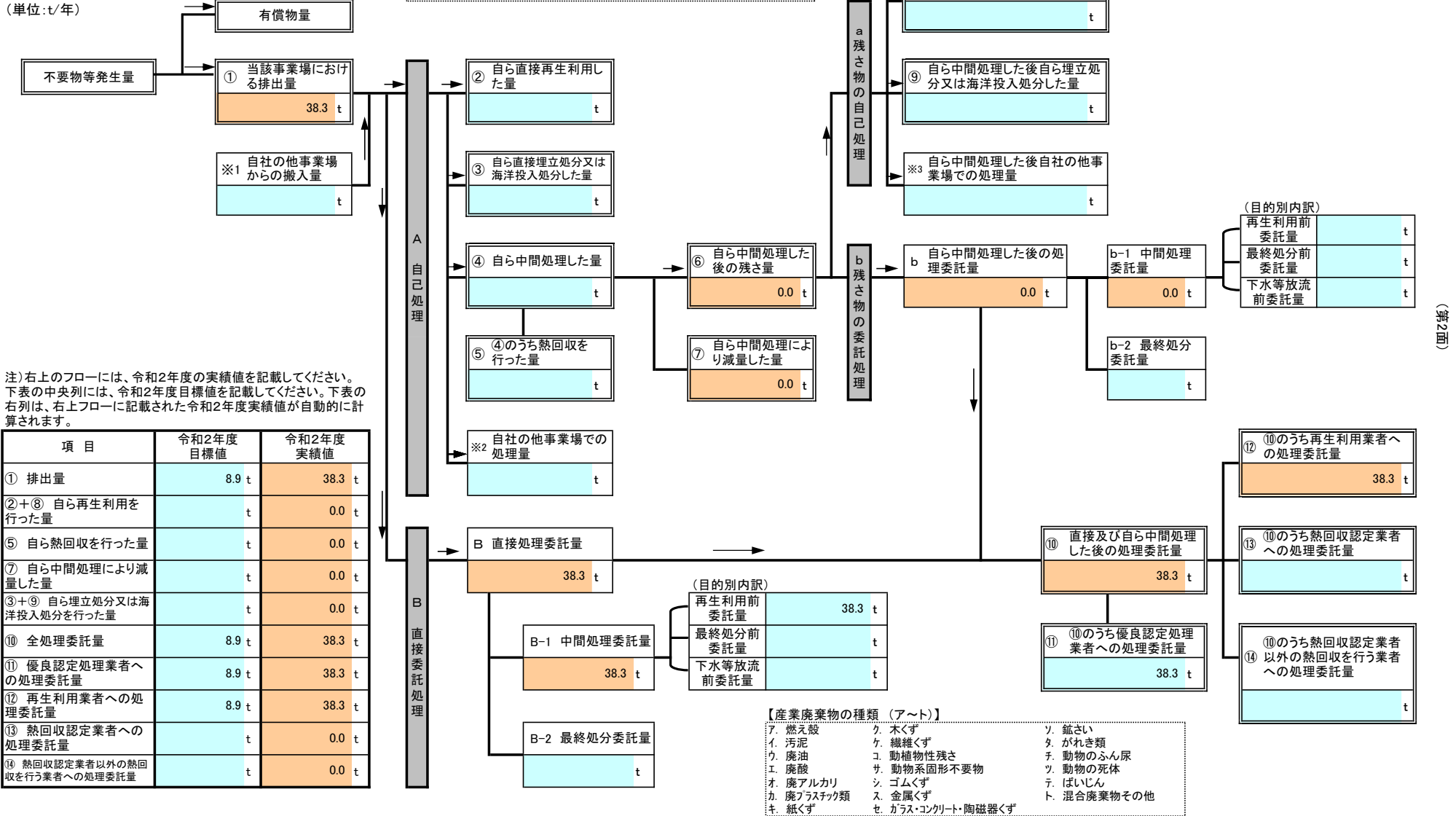
事業場名称 : 飛鳥建設株式会社 首都圏土木支店

令和2年度に発生した産業廃棄物ごとの量と処理計画の実施結果

フローに記載した産業廃棄物の種類	キ. 紙くず
------------------	--------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位: t/年)



注) 右上のフローには、令和2年度の実績値を記載してください。下表の中央列には、令和2年度目標値を記載してください。下表の右列は、右上フローに記載された令和2年度実績値が自動的に計算されます。

項目	令和2年度目標値	令和2年度実績値
① 排出量	8.9 t	38.3 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	t	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	t	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	t	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	t	0.0 t
⑩ 全処理委託量	8.9 t	38.3 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	8.9 t	38.3 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	8.9 t	38.3 t
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	t	0.0 t
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	0.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鉱さい
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

(単位: t)

3-2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称 : 飛鳥建設株式会社 首都圏土木支店

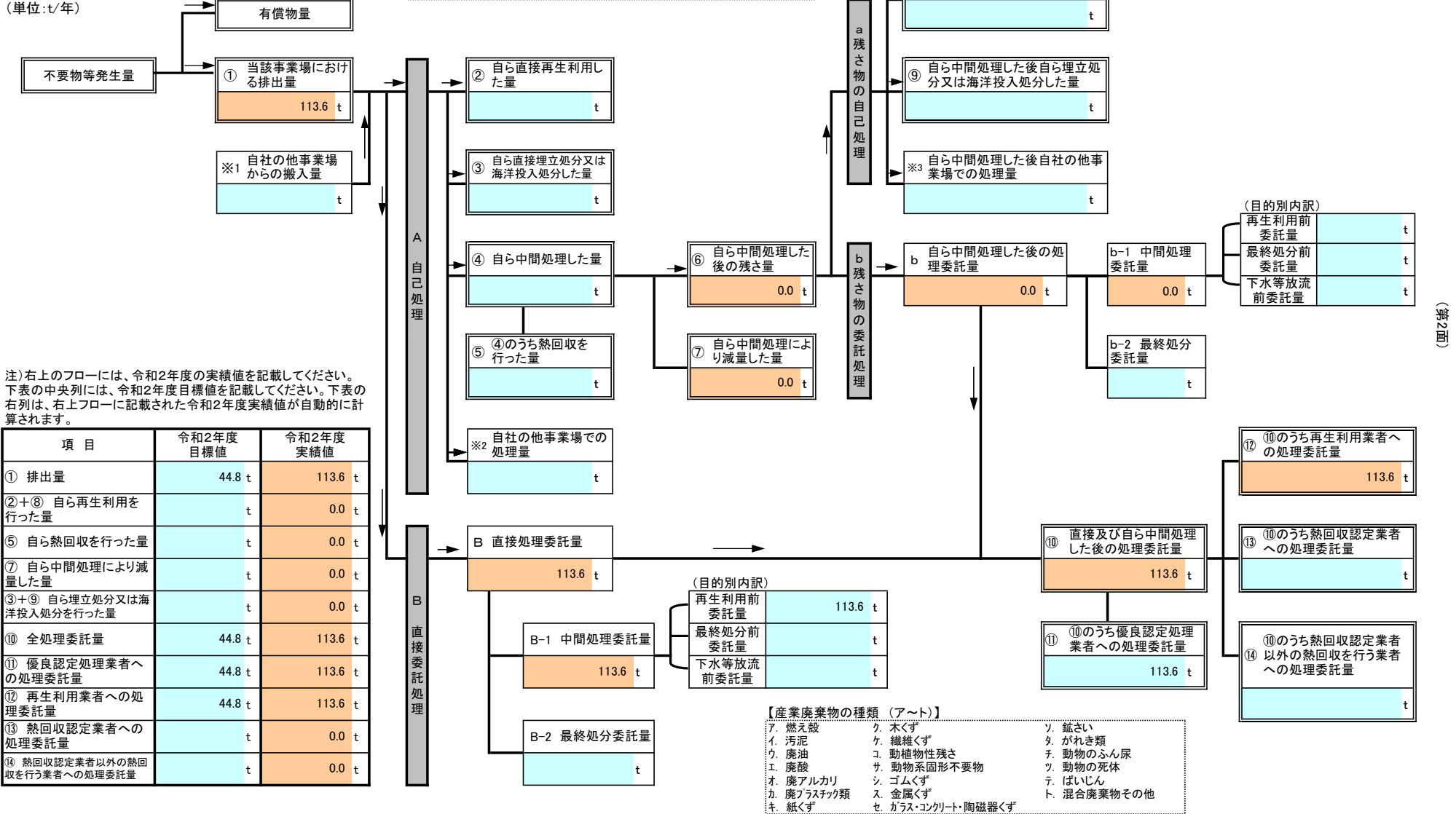
令和2年度に発生した産業廃棄物ごとの量と処理計画の実施結果

フローに記載した産業廃棄物の種類	ク. 木くず
------------------	--------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

「木くず」には業種指定等があり、該当業種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です。
 【該当業種】木材又は木製品の製造業(家具製造業を含む)、パルプ製造業、輸入木材の卸売業及び物品賃貸業に係るもの、建設業(工作物の新築、改築、除去に伴って生じたもの)。
 【全業種対象】貨物の流通のために使用したパレット(パレットへの貨物の積付けのために使用したこん包用の木材を含む。)

(単位: t/年)



注) 右上のフローには、令和2年度の実績値を記載してください。下表の中央列には、令和2年度目標値を記載してください。下表の右列は、右上フローに記載された令和2年度実績値が自動的に計算されます。

項目	令和2年度目標値	令和2年度実績値
① 排出量	44.8 t	113.6 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	t	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	t	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	t	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	t	0.0 t
⑩ 全処理委託量	44.8 t	113.6 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	44.8 t	113.6 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	44.8 t	113.6 t
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	t	0.0 t
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	0.0 t

【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】

- | | | |
|-------------|---------------------|-------------|
| ア. 燃え殻 | ク. 木くず | ソ. 銻さい |
| イ. 汚泥 | ケ. 繊維くず | タ. がれき類 |
| ウ. 廃油 | コ. 動植物性残さ | チ. 動物のふん尿 |
| エ. 廃酸 | サ. 動物系固形不要物 | ツ. 動物の死体 |
| オ. 廃アルカリ | シ. ゴムくず | テ. ばいじん |
| カ. 廃プラスチック類 | ス. 金属くず | ト. 混合廃棄物その他 |
| キ. 紙くず | セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず | |

(単位: t)

3-2	法定	自主
	○	

事業場名称 : 飛鳥建設株式会社 首都圏土木支店

別紙処理フロー

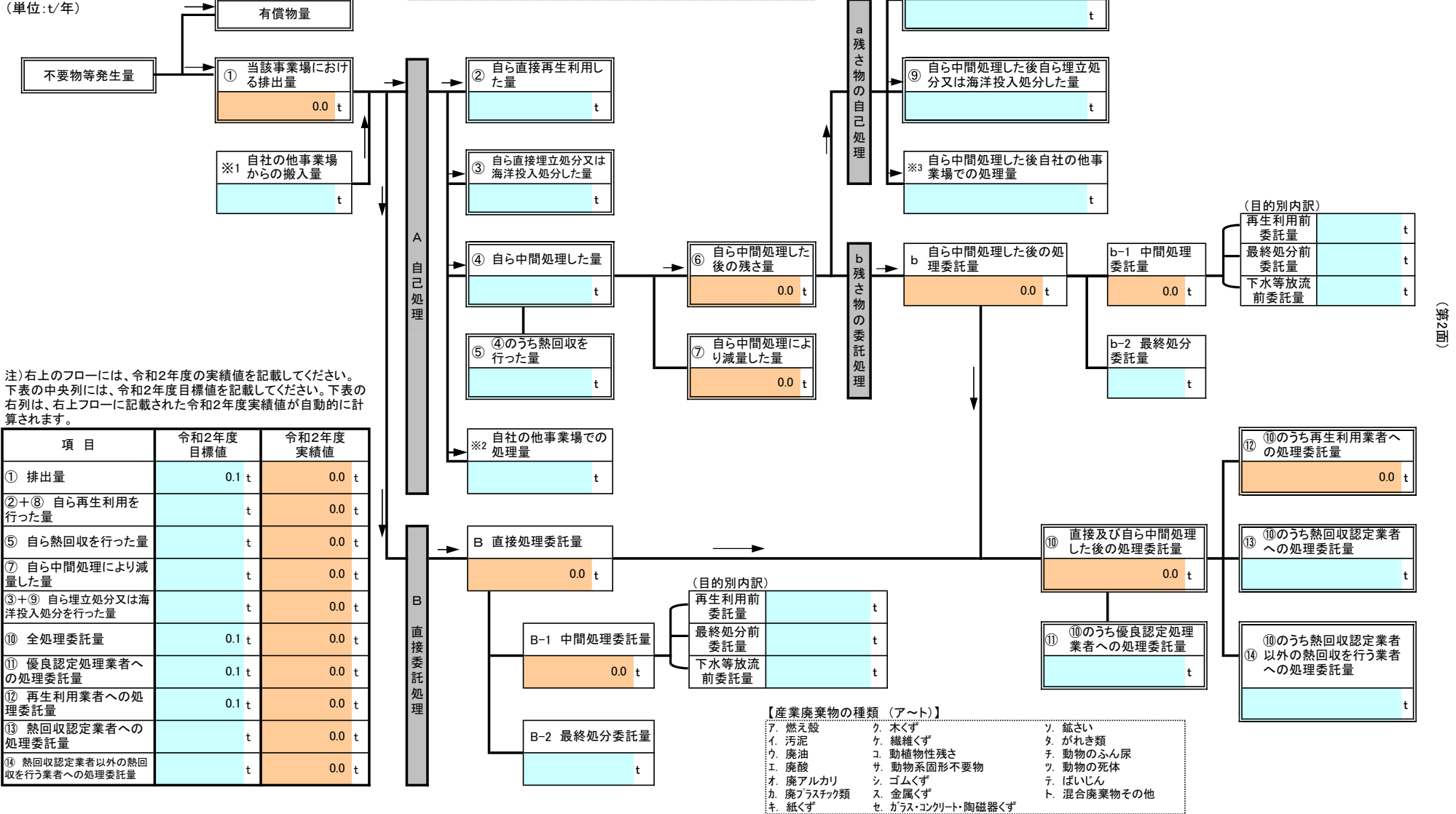
令和2年度に発生した産業廃棄物ごとの量と処理計画の実施結果

フローに記載した産業廃棄物の種類	ケ. 繊維くず
------------------	---------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

「繊維くず」には業種指定があり、該当業種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です。
【該当業種】繊維工業(衣服その他の繊維製品製造業を除く)、建設業(工作物の新築、改築、除去に伴って生じたもの)

(単位:t/年)



注)右上のフローには、令和2年度の実績値を記載してください。下表の中央列には、令和2年度目標値を記載してください。下表の右列は、右上フローに記載された令和2年度実績値が自動的に計算されます。

項目	令和2年度目標値	令和2年度実績値
① 排出量	0.1 t	0.0 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	t	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	t	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	t	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	t	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.1 t	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.1 t	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.1 t	0.0 t
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	t	0.0 t
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	0.0 t

【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】

- ア. 燃え殻
- イ. 汚泥
- ウ. 廃油
- エ. 廃酸
- オ. 廃アルカリ
- カ. 廃プラスチック類
- キ. 紙くず
- ク. 木くず
- ケ. 繊維くず
- コ. 動植物性残さ
- サ. 動物系固形不要物
- シ. ゴムくず
- ス. 金属くず
- セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
- ソ. 鉱さい
- タ. がれき類
- チ. 動物のふん尿
- ツ. 動物の死体
- テ. ばいじん
- ト. 混合廃棄物その他

(縦3面)

3-2	法定	自主
	○	

事業場名称 : 飛鳥建設株式会社 首都圏土木支店

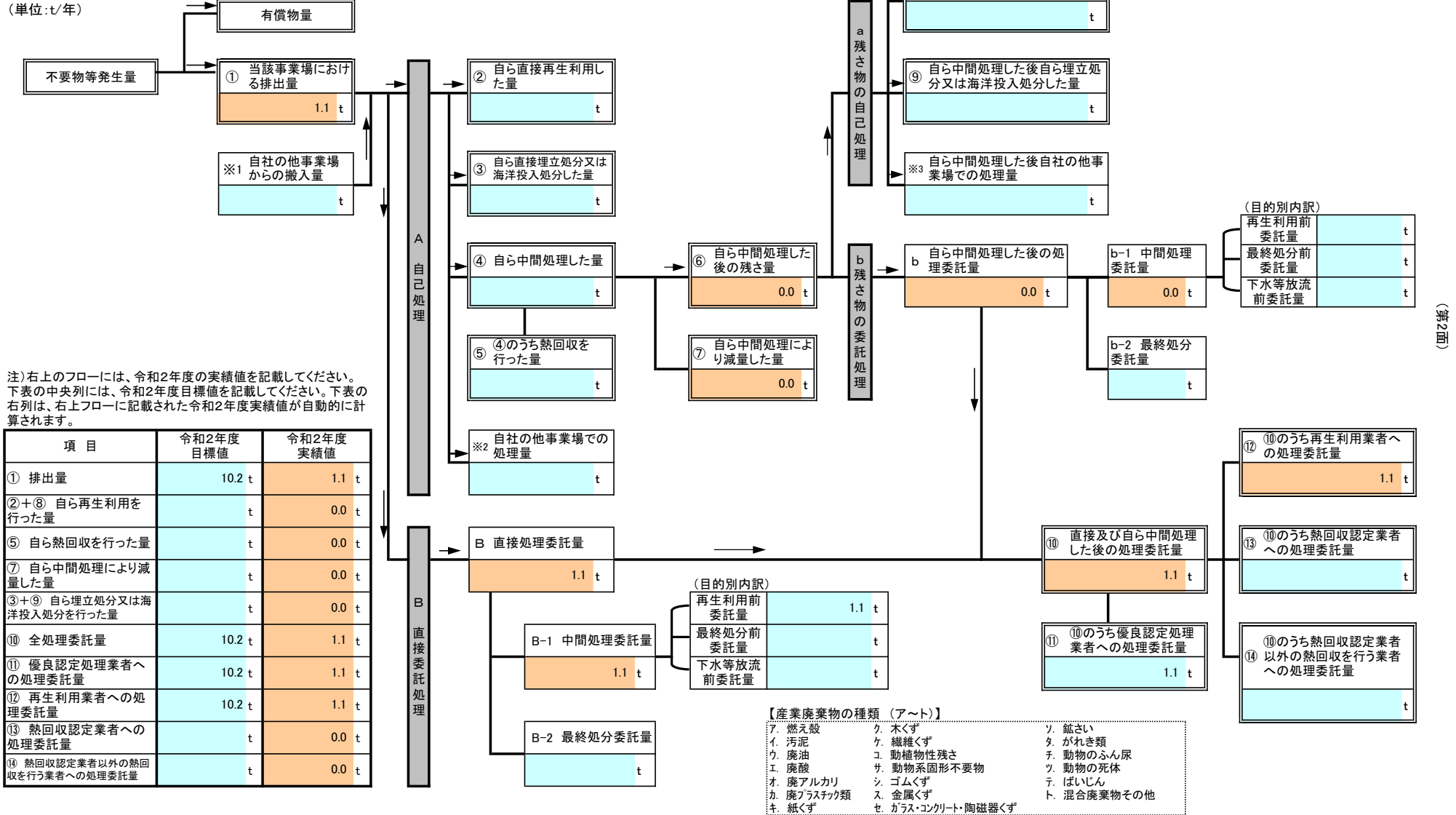
別紙処理フロー

令和2年度に発生した産業廃棄物ごとの量と処理計画の実施結果

フローに記載した産業廃棄物の種類	ス、金属くず
------------------	--------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位: t/年)



注) 右上のフローには、令和2年度の実績値を記載してください。下表の中央列には、令和2年度目標値を記載してください。下表の右列は、右上フローに記載された令和2年度実績値が自動的に計算されます。

項目	令和2年度目標値	令和2年度実績値
① 排出量	10.2 t	1.1 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	t	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	t	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	t	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	t	0.0 t
⑩ 全処理委託量	10.2 t	1.1 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	10.2 t	1.1 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	10.2 t	1.1 t
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	t	0.0 t
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	0.0 t

【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】

ア. 燃え殻	ク. 木くず	ソ. 銻さい
イ. 汚泥	ケ. 繊維くず	タ. がれき類
ウ. 廃油	コ. 動植物性残さ	チ. 動物のふん尿
エ. 廃酸	サ. 動物系固形不要物	ツ. 動物の死体
オ. 廃アルカリ	シ. ゴムくず	テ. ばいじん
カ. 廃プラスチック類	ス. 金属くず	ト. 混合廃棄物その他
キ. 紙くず	セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず	

(縦3面)

3-2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

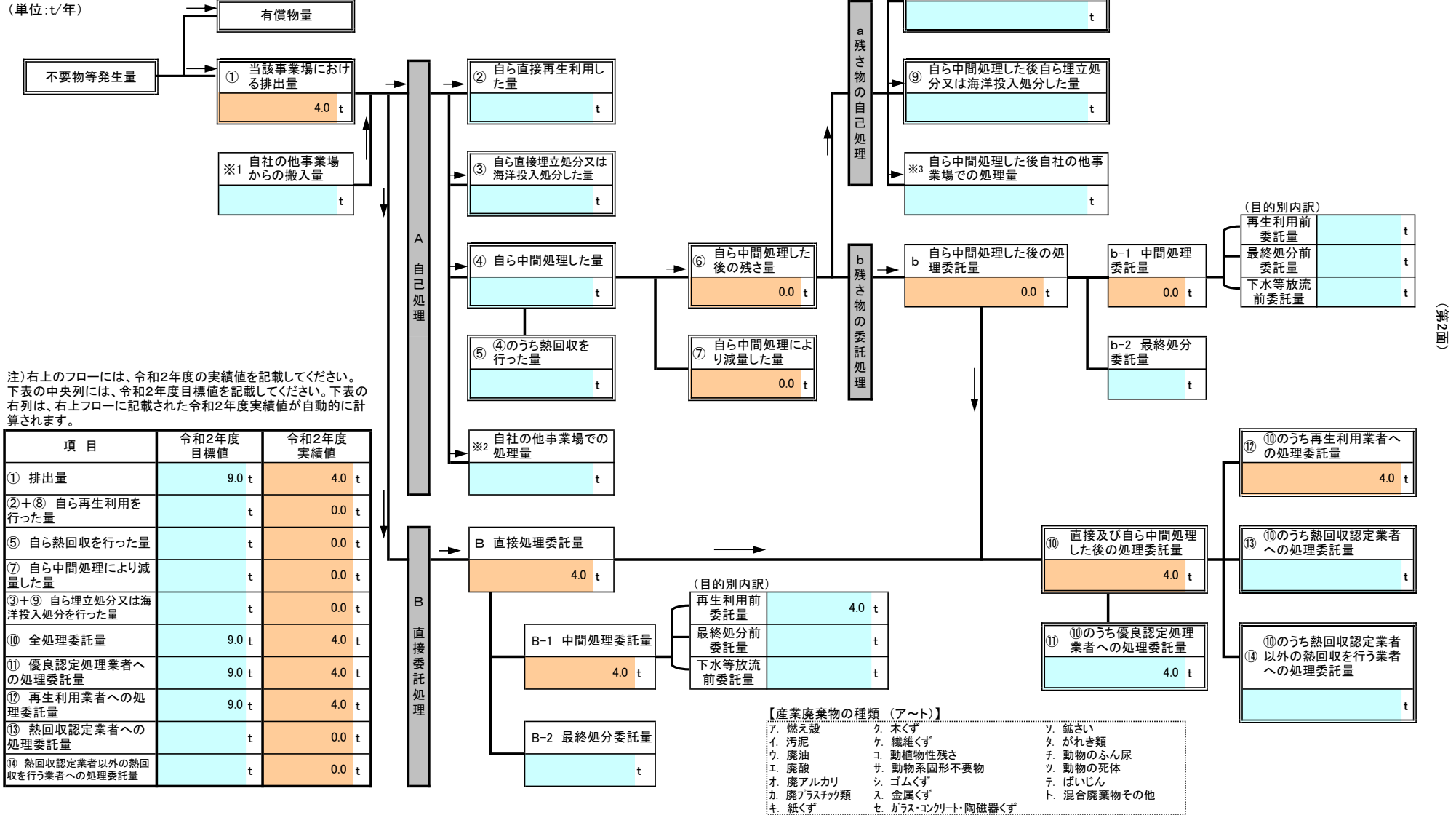
事業場名称 : 飛鳥建設株式会社 首都圏土木支店

令和2年度に発生した産業廃棄物ごとの量と処理計画の実施結果

フローに記載した産業廃棄物の種類	セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
------------------	---------------------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位: t/年)



注) 右上のフローには、令和2年度の実績値を記載してください。下表の中央列には、令和2年度目標値を記載してください。下表の右列は、右上フローに記載された令和2年度実績値が自動的に計算されます。

項目	令和2年度目標値	令和2年度実績値
① 排出量	9.0 t	4.0 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	t	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	t	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	t	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	t	0.0 t
⑩ 全処理委託量	9.0 t	4.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	9.0 t	4.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	9.0 t	4.0 t
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	t	0.0 t
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	0.0 t

【産業廃棄物の種類 (A~T)】

- ア. 燃え殻
- イ. 汚泥
- ウ. 廃油
- エ. 廃酸
- オ. 廃アルカリ
- カ. 廃プラスチック類
- キ. 紙くず
- ク. 木くず
- ケ. 繊維くず
- コ. 動植物性残さ
- サ. 動物系固形不要物
- シ. ゴムくず
- ス. 金属くず
- セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
- ソ. 鉱さい
- タ. がれき類
- チ. 動物のふん尿
- ツ. 動物の死体
- テ. ばいじん
- ト. 混合廃棄物その他

(縦向き)

3-2	法定 ○	自主
-----	---------	----

事業場名称 : 飛鳥建設株式会社 首都圏土木支店

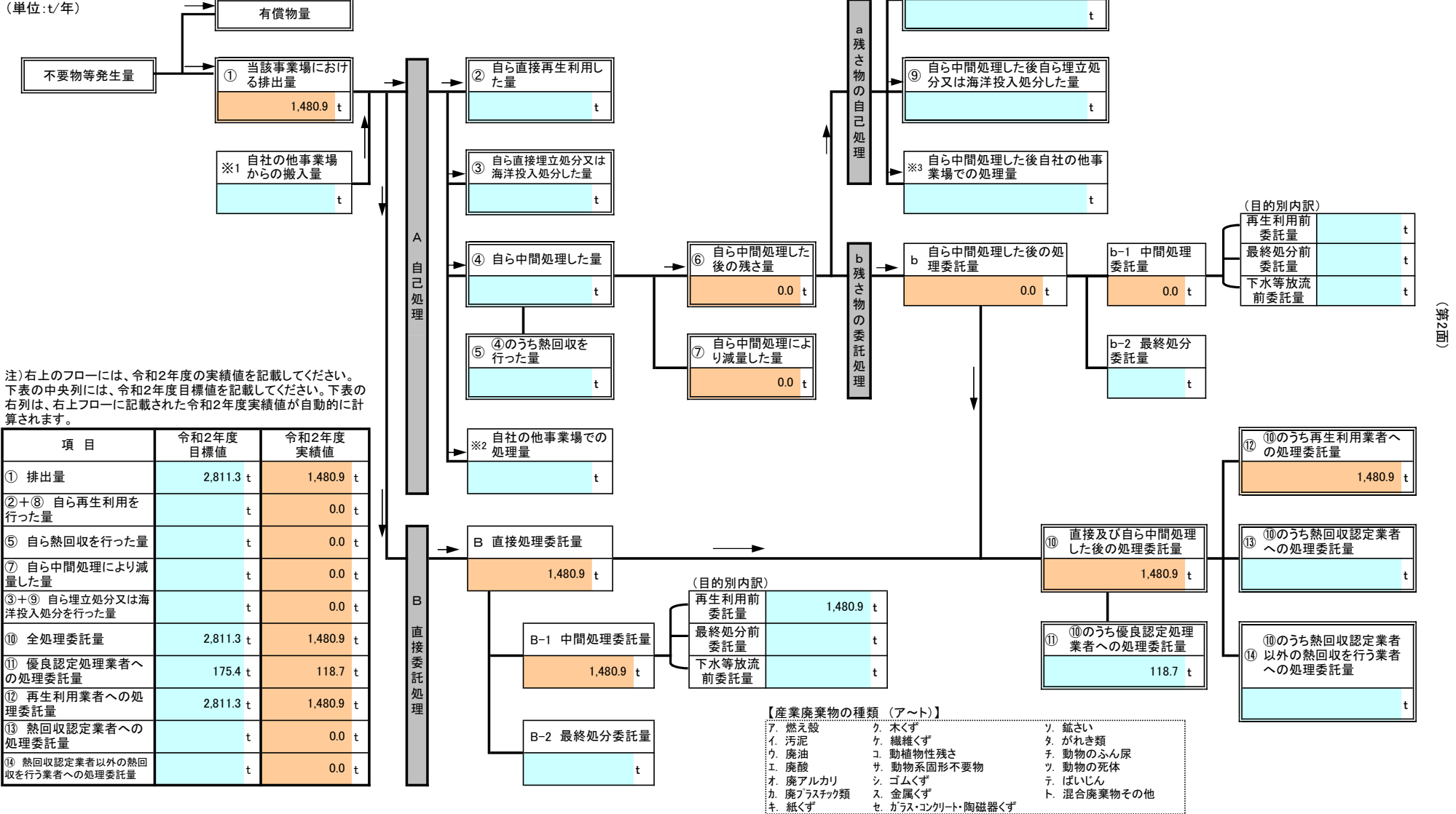
別紙処理フロー

令和2年度に発生した産業廃棄物ごとの量と処理計画の実施結果

フローに記載した産業廃棄物の種類	タ、がれき類
------------------	--------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位: t/年)



注) 右上のフローには、令和2年度の実績値を記載してください。下表の中央列には、令和2年度目標値を記載してください。下表の右列は、右上フローに記載された令和2年度実績値が自動的に計算されます。

項目	令和2年度目標値	令和2年度実績値
① 排出量	2,811.3 t	1,480.9 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	t	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	t	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	t	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	t	0.0 t
⑩ 全処理委託量	2,811.3 t	1,480.9 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	175.4 t	118.7 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	2,811.3 t	1,480.9 t
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	t	0.0 t
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	0.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鉱さい
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

(縦向き)

3-2	法定 ○	自主
-----	---------	----

別紙処理フロー

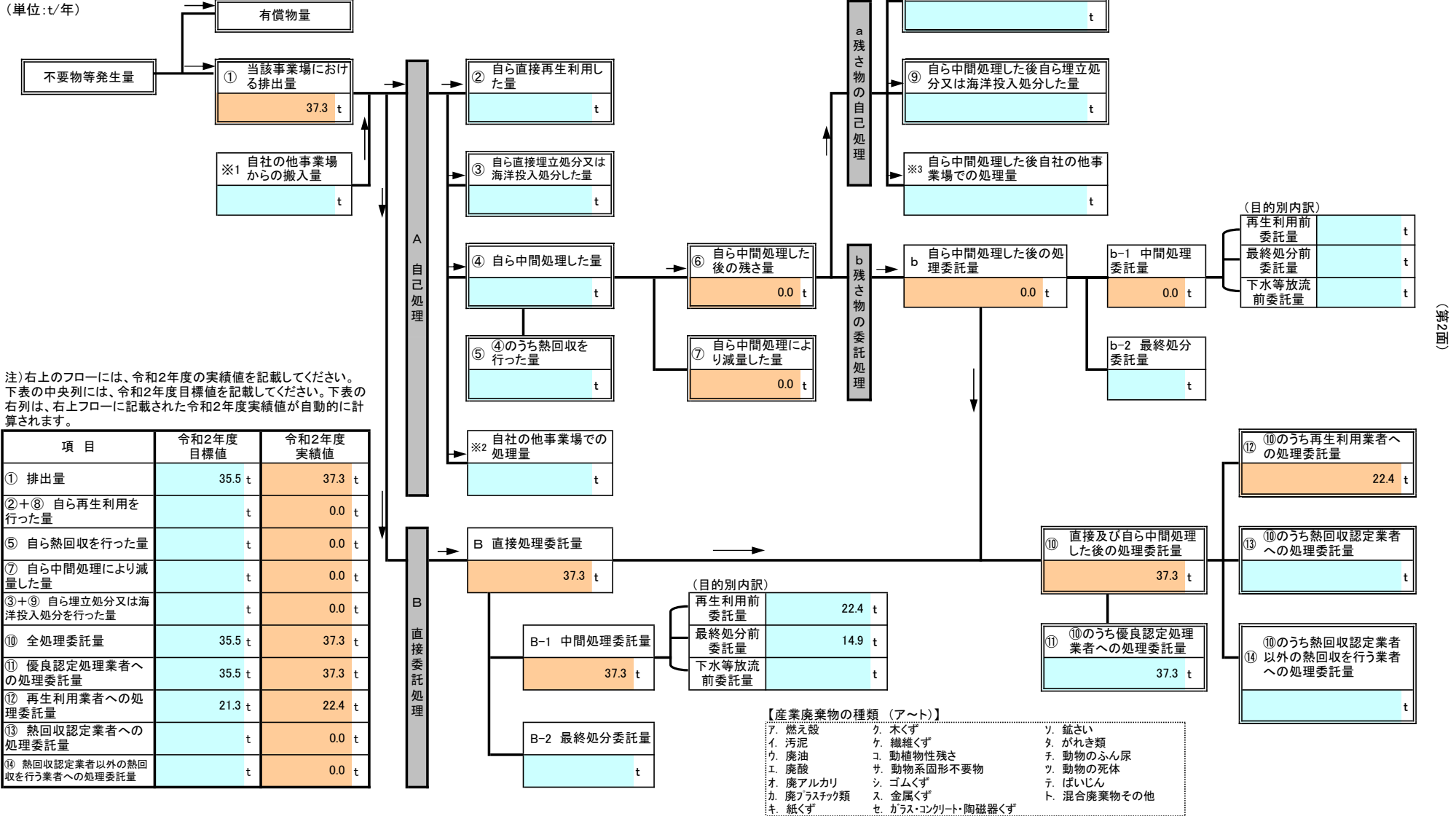
事業場名称 : 飛鳥建設株式会社 首都圏土木支店

令和2年度に発生した産業廃棄物ごとの量と処理計画の実施結果

フローに記載した産業廃棄物の種類	ト. 混合廃棄物その他
------------------	-------------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位: t/年)



注) 右上のフローには、令和2年度の実績値を記載してください。下表の中央列には、令和2年度目標値を記載してください。下表の右列は、右上フローに記載された令和2年度実績値が自動的に計算されます。

項目	令和2年度目標値	令和2年度実績値
① 排出量	35.5 t	37.3 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	t	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	t	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	t	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	t	0.0 t
⑩ 全処理委託量	35.5 t	37.3 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	35.5 t	37.3 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	21.3 t	22.4 t
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	t	0.0 t
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	0.0 t

- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 木くず
 - ケ. 繊維くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鉱さい
 - タ. がれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. ばいじん
 - ト. 混合廃棄物その他

(縦向き)

備考

- 1 翌年度(令和3年度)の6月30日までに提出してください。
- 2 「事業の種類」欄には、日本標準産業分類(中分類)の区分を記入してください。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、前年度(令和2年度)提出の産業廃棄物処理計画に記載した目標量を記入してください。
- 4 第2面(様式3-2)には、前年度(令和2年度)の産業廃棄物処理実績に関して①～⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入してください。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分した量又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 5 第2面(様式3-2)の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入してください。
- 6 ※欄には、何も記入しないでください。